

國學院大學學術情報リポジトリ

戦国期における神社の動向：九州地方を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永田, 忠靖, Nagata, Tadayasu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002477

(附一) 中世後期～近世における一宮の動向

		大名	社殿	社領	祭祀	年中行事・その他
山城国	賀茂別雷神社	・信長・秀吉・家康の参詣 ・近世：江戸幕府	・弘治2年(1556)：天正19年(1591)に社殿造営 ・寛永5年(1628)：江戸幕府により古式に則り造営 ・延宝～正徳期に修理造営	・秀吉、諸荘園没収後に2572石の社領を寄進 ・江戸幕府、この社領を朱印地として認める ・元禄4年(1691)：京都所司代より約165石寄進	・賀茂祭、応仁の乱以後中絶 →元禄7年(1694)：賀茂祭再興に際し478石下行 ・臨時祭、室町末期中絶 →文化11年(1814)：臨時祭復興に際し、211石下行	「賀茂大神宮年中神事略次第」(1674) 「年中御神事次第」(1680) 「諸神事註秘抄」(1742) 「鴨社年中行事」(1778)
	賀茂御祖神社	近世：江戸幕府	・寛永5年(1628)：江戸幕府により古式に則り造営 ・それ以降、延宝7年(1679)～文久3年(1863)までに7回の正遷宮	・天正13年及び17年(1585・89)太閤検地により社領没収 ・秀吉、541石を社領として寄進		
大和国	大神神社	近世：幕府・高取藩	・寛文4年(1664)：徳川家綱により拝殿造営(奉行は高取藩主植村家吉)	・太閤検地により、社領は75石 ・歴代将軍より、朱印地60石安堵	官祭、室町期中絶	南北朝以来、中立性を保持して戦乱に巻き込まれず
河内国	枚岡神社	豊臣秀頼による保護	・文明9年(1477)：氏子による造営 ・天正2年(1574)：信長により灰燼 ・慶長10年(1605)：豊臣秀頼による再建 ・文政9年(1826)：氏子の浄財による社殿造営	←慶長10年の再建に際して、社領などを寄進		慶長19年(1614)：京都所司代板倉勝重により禁制三ヵ条
和泉国	大鳥神社		・永禄・天正期の戦乱により、社殿焼失 ・慶長7年(1602)：豊臣秀頼による再興 ・慶長9～11年(1604～06)：徳川家康による修復←武運長久祈願	・永禄・天正期の戦乱により没収 ・元和3年(1617)時点：社領1100石		大鳥社家は中世において数家に分立した上で、権力者との結びつきの中で領主化傾向にあった

摂津国	住吉神社	<ul style="list-style-type: none"> ・天正16年（1588）、豊臣秀吉による生母の病氣平癒・延命祈願 ・近世：徳川氏の保護・西国諸大名の参詣 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正4年（1576）、石山合戦により焼亡 ・慶長11年（1606）、豊臣秀頼により再興（天文14年以来の大修復） ・元和4年（1618）・明暦元年（1655） ・宝暦8年（1758）・文化7年（1810）に遷宮 ※永享6年（1434）までは20年毎の式年遷宮 	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄3年（1594）、豊臣秀吉は朱印地として2060石を寄進 ・元和元年（1615）、江戸幕府もこの社領を安堵 	<ul style="list-style-type: none"> 享和3（1803）：光格天皇遣使奉幣 	『住吉太神宮諸神事次第』（文永年中/南北朝） 「住吉大神宮年中行事」（1638）
伊賀国	敢国神社	近世：藤堂氏による保護	<ul style="list-style-type: none"> ・天正9年（1581）：信長の伊賀攻めにより破壊 ・慶長14年（1609）：藤堂高虎による再建 ・正保2年（1645）：藤堂高次による鳥居造立 ※一宮再興には郷土から百姓等などの奉加を下知 	慶長17年（1612）：藤堂高虎は107石4斗を寄進	<ul style="list-style-type: none"> ・例祭「おんまつり」：藤堂高虎再興 ・慶長年間、獅子神楽を藤堂氏再興 	「一宮黒党次第案」（『三国地志』）
伊勢国	椿大神社	近世：代々亀山藩主による保護	<ul style="list-style-type: none"> ・天正11年（1583）：秀吉により社殿及び古記類消失 ・寛永14年（1637）：本田俊次による社殿造営 ・寛文年間：板倉重常による社殿・拝殿等造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・寛永14年（1637）：本田俊次による上田三反一畝の寄進 ・宝永4年（1707）：御供料25石寄進 ・宝永5年（1708）：御燈料25石寄進 	寛文年間、御輿・装束の寄進により年中祭祀の再興	
志摩国	伊雑宮		<ul style="list-style-type: none"> ・明応～慶長までの6回の造営費調達のために社人が諸国を廻る（社人が旦那を持つ） ・慶長6年（1601）、寛永15年（1638）：磯部七郷の郷民により仮殿遷宮 	九鬼氏による社領の押領	磯部郷民による祭祀	「皇大神宮年中行事」（1192成立・1464加筆） 「氏経神事記」
尾張国	真清田神社	近世：尾張藩による保護と統制	寛永8年（1631）：徳川義直による重葺造替	<ul style="list-style-type: none"> ・家康の意により尾張藩主松平忠吉、社領200石寄進 ・寛永4年（1627）：藩主徳川義直による105石の寄進→旧来からの社領を合わせて333石6斗 		『真清探桃集』（1733）

三河国	砥鹿神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期（永禄6年：1563まで）：今川氏の統制 ・近世：吉田藩による保護と統制 	<ul style="list-style-type: none"> ・永正13年（1533）：社殿造営 ・天正4年（1576）：本宮仮殿造営 ・天正13年（1585）：本殿造営 ・慶長9年（1604）：本殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長7年（1602）：100石の朱印地安堵 ・慶長8年（1603）：奥宮に20石の朱印地安堵 	吉田藩による雨乞祈祷	「年中行事之祭礼」（1686）
遠江国	小国神社	<ul style="list-style-type: none"> ・元亀3年（1572）：徳川家康、戦勝祈願 ・徳川将軍家による保護 ・寛保元年（1741）：徳川吉宗より修復料400両寄付 	<ul style="list-style-type: none"> ・元亀3年（1572）：武田氏と徳川氏との戦火に遭う←徳川方に与した神主家が放火（武田軍を追い払うため） ・天正3年（1575）：徳川家康により再興 ・元禄10年（1697）：徳川綱吉により社殿改築 ・寛保2年（1742）：社殿修理のため遠江・駿河・三河・信濃の4カ国の勸進を幕府許可 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正18年（1590）：秀吉により594石6斗の社領寄進 ・慶長8年（1603）：朱印地590石寄進 		「小国神社十二段舞楽」（1677） 「遠州周智郡一宮記録」（1680） 「一宮祭礼舞堂諸用記」（1688定・1789写） 「御田遊次第」（1717）
駿河国	浅間神社	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉期：北条氏 ・室町期：今川氏 ・戦国期：武田氏 ・近世：徳川将軍家 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正6年（1578）：武田勝頼による造営 ・天正10年（1582）：北条氏政の軍勢により焼亡 ・慶長9年（1604）：徳川家康戦勝奉賛のため本殿・拝殿及び30近くの社殿の再建 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正18年（1590）：秀吉により祭料として380石の安堵 ・寛永18年（1641）：徳川家光による867石9斗1升の寄進 	北条氏・武田勝頼・秀吉による流鏝馬神事の保護	「富士大宮御神事帳」（1577） 「富士本宮年中祭禮之次第」（1650）
伊豆国	三島神社	<ul style="list-style-type: none"> ・永正元年（1504）今川氏親、戦勝祈願 ・永正14年（1534）北条早雲、神服奉納 ・戦国期：北条氏 ・近世：徳川将軍家 	<ul style="list-style-type: none"> ・大永4年（1524）：火事により社頭炎上 ・大永6年（1526）：北条氏綱は造営のための諸国勸進を許可 ・永禄12年（1569）：武田氏による三嶋侵攻で社殿焼失 	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄3年（1594）：家康より330石の寄進 ・慶長9年（1604）：200石の加増 		「三島大社祭礼式」（1699） 「豆州三島宮御祭礼七拾五度之内五度之御大祭礼神供御料理之図」（1800） 「三島神事記」（1802）ほか

甲斐国	浅間神社	<ul style="list-style-type: none"> ・武田氏による保護・統制 ・武田氏滅亡後、徳川家による保護 	慶長12年(1607)：幕府による大規模な社殿造営	<ul style="list-style-type: none"> ・武田氏による寄進(3カ所)←祈願成就などによるもの ・天正10年(1582)：徳川家康により200貫文の神領安堵 ・家光以後、234石2斗の寄進 	一宮・二宮・三宮合同祭祀：領国支配の一環としての勸農のための祭祀	「一宮御まつりの次第(祭礼帳)」(1614) 1715・1762にも祭礼帳
相模国	寒川神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：北条氏 ・近世：徳川将軍家 	<ul style="list-style-type: none"> ・大永2年(1522)：北条氏綱社殿再興 ・天文15年(1546)：北条氏康宝殿再興 ・天正6年(1578)：社僧等による修造 ・元禄10年(1697)、寛保元年(1741)：近郷の奉加による造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄2年(1559)：北条氏社領27貫文寄進 ・天正19年(1591)：徳川家康100石の朱印地を寄進(歴代将軍も安堵) 		
武蔵国	氷川神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：北条氏 ・近世：徳川氏による保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄5年(1596)：徳川氏は伊奈忠次を奉行として社殿造営 ・寛文7年(1667)：阿部豊後守を奉行として社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正19年(1591)：家康より100石の寄進 ・慶長9年(1604)：200石の加増 	「武州一宮氷川大明神祭禮年中行事之記」(1707) 「武州一宮氷川神社年中行事」(1867)	
安房国	安房神社	里見氏による保護	<ul style="list-style-type: none"> ・明応8年(1499)：地震による社殿倒壊 ・文亀3年(1503)：里見義成による本殿・瑞垣造営 ・天文5年(1536)：里見義弘による造営 ・文禄～慶長年間(1592～1615)：里見氏により社殿修復 	寛永13年(1636)：社領は30石4斗		
上総国	玉前神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：里見氏 ・近世：幕府・一宮藩 	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄9年(1566)：北条氏と里見氏との戦火により記録・宝物類を失う ・貞享4年(1687)：本殿造営 ・宝永7年(1710)：神楽殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正10年(1582)：里見義頼が宮地寄進 ・天正19年(1591)：徳川家康より15石の寄進 		

下総国	香取社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：千葉氏 ・近世：徳川氏による保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長12年（1607）：江戸幕府による大造営 ・元禄13年（1700）：徳川綱吉による本殿・楼門などの造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正19年（1591）：鳥居氏による検地→社領の大幅な削減 ・天正19年（1591）：徳川家康による社領1000石の寄進 		<ul style="list-style-type: none"> 「香取社年中神事目録」（1386） 「香取社祭礼帳写」（1681） 「香取宮年中御祭礼次第」（享保年中）
常陸国	鹿島社	<ul style="list-style-type: none"> ・天正19年（1591）：佐竹氏により鹿島社大使役廃絶 ・戦国期：佐竹氏 ・近世：徳川将軍家 	<ul style="list-style-type: none"> ・遷宮（建久4・建暦元年・弘長3・弘安5・正応2・正和4・元享3・応永25・永享7・大永7・天正7） ・慶長9年（1604）：家康により奥宮造営 ・元和5年（1620）：徳川秀忠により本殿・拝殿造営 ・寛永11年（1634）：水戸藩徳川頼房による楼門・回廊などの造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄4年（1595）：検地後405石の社領 ・慶長7年（1602）の検地後、1500石加増 ・慶長10年（1605）：館山藩主里見忠義による200石の寄進 	神幸祭、戦国期中絶	『鹿島年中行事』（近世）
近江国	建部神社		<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱の際、山名氏の軍勢により焼失 ・文明12年（1480）：勅命により社殿再建 ・享保9年（1724）：本殿・拝殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正検地により、神田没収 ・元和4年（1618）：膳所藩主により10石の寄進 ・慶安5年（1652）：10石加増 		『神縁年録』（1510）
美濃国	南宮社	<ul style="list-style-type: none"> ・竹中重隆、徳永寿昌が家康の代参として関ヶ原合戦の際戦勝祈願 ・戦国期：土岐氏 ・近世：徳川将軍家 	<ul style="list-style-type: none"> ・寛正2年（1461）と永正8年（1511）の遷宮←守護土岐氏と斎藤氏の関与 ・関ヶ原合戦により、社殿焼失 ・慶長16年（1611）：竹中・徳永氏により仮社殿造営 ・寛永19年（1642）：幕府により社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正17年（1589）：秀吉により360石寄進 ・慶長14年（1608）以降、社領は405石 	天正10年（1582）：織田信雄の禁制→祭礼の常楽会の執行	<ul style="list-style-type: none"> 『延宝八年美濃国一宮南宮記』（1680） 「南宮神事祭礼年中行事」（1688） 『南宮社寺家年中行事』
飛騨国	水無神社	<ul style="list-style-type: none"> ・天文23年（1554）：後奈良天皇宸筆の大般若経の奉納による国土安泰祈願 ・戦国期：金森氏 ・近世：歴代高山藩主（金森氏）による保護→後、幕府直轄領 	<ul style="list-style-type: none"> ・永正18年（1521）：神主藤原民部少輔政治の勧進による造営 ・天正13年（1585）：金森長近の兵火による焼亡 ・慶長12年（1607）：高山藩主金森長近による拝殿の造営 ・寛文10年（1670）：藩主金森頼直による本殿造営 		<ul style="list-style-type: none"> ・明徳期：1500石 ・元禄年間：除地山林2町6段及び八幡宮地5段 	

信濃国	諏訪社	<ul style="list-style-type: none"> ・守護による一国統合できず→国人の自立性 ・戦国期：武田氏による統制と保護（天文11年（1542）以降） 	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄9年（1566）、元亀元年（1572）、天正6年（1578）：武田氏による造営 ・天正10年（1582）：信長により焼亡 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶安元年（1648）：徳川家光により朱印地500石安堵 ・高島藩主より90石の寄進 ・会津藩主保科正之より50石の永代寄進 	<ul style="list-style-type: none"> 永禄8～9年（1565～66）：武田信玄による祭祀再興 	<ul style="list-style-type: none"> 「年内神事次第旧記」 「年中神事次第」（共に室町期） 「諏訪上下祭祀再興次第」（1565）
上野国	貫前神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：上杉・北条・武田の庇護 ・近世：徳川将軍家の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄10年（1567）：武田信玄により造替費用を信濃四郡にも負担←武田氏の政策（上野国だけでない全体的統治策） ・徳川家康による社殿改築 ・寛永12年（1635）：徳川家光による社殿造営 ・元禄11年（1698）：徳川綱吉による社殿修理 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文23年（1554）：北条氏により修理料所寄進 ・天正7年（1579）：社領は420貫文 ・天正19年（1591）：家康により朱印地176石8斗及び境内地30,000坪の寄進 		<ul style="list-style-type: none"> 「延宝式」（1680） 「神勤向書上帳」（1736） 「抜鉾大明神年中行事」（1854） 「当御社年中行事」（1857）
下野国	二荒山神社（日光）	<ul style="list-style-type: none"> 近世：徳川氏による保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・明德2年（1391）：本宮焼亡 ・大永2年（1522）：失火により本宮焼亡 ・永禄5年（1562）：戦火による罹災 ・永禄7年（1564）：櫻本坊宗安による社殿再建 ・元和5年（1619）：幕府により新宮本殿造営 ・貞享2年（1685）：幕府により本宮社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正18年（1590）：秀吉により山領没収（足尾郷のみ残）←北条氏に与したため ・元和6年（1620）：徳川秀忠により1400石の加増→近世二荒山領は東照宮領に包括 		
	二荒山神社（宇都宮）	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉期～戦国期：宇都宮氏 近世：幕府・宇都宮藩 	<ul style="list-style-type: none"> ・永正5年（1508）、天文7年（1538）、天正2年（1574）：社殿修理 ・天正13年（1585）：北条氏直による宇都宮攻略により焼亡 ・慶長10年（1605）：家康の命により社殿改造→修繕に際しては幕府の許可により宇都宮藩が奉行 ・安永2年（1773）、天保3年（1832）、慶應4年（1868）の三度の火災→その都度再建 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長2年（1597）：宇都宮氏の没落により社領没収 ・慶長5年（1600）：家康による1500石の寄進→代々神領として将軍の朱印状を下賜 		

陸奥国	塩釜神社	<ul style="list-style-type: none"> 南北朝・室町期：北畠（陸奥将軍府）、吉良・畠山氏（奥州管領）による寄進・祈願・奉幣 戦国期：近世：伊達氏による保護 	<ul style="list-style-type: none"> 天正9・17年（1581・89）：留守政景（伊達晴宗三男）による造営 慶長12年（1607）：伊達政宗による大造営 	伊達政宗により従来の社領は没収→元和5年（1619）：新たな社領の宛がい	天文年間（1532～55）：留守氏（陸奥留守職、祖は伊沢氏）による社人の被官化	「塩釜年中行事」「塩釜社神籍」「別当法蓮寺記」（いずれも近世期）
	都都古和気神社（馬場）	<ul style="list-style-type: none"> 戦国期：佐竹氏 近世：棚倉藩 	<ul style="list-style-type: none"> 天正年間（1573～92）：白河城主関義親による造営 文禄3年（1595）：佐竹義宣による社殿造営→佐竹氏の家臣団の寄進及び郷村からの勧進 	<ul style="list-style-type: none"> 文禄4年（1596）：佐竹氏より60石寄進 江戸初期：社領300石 慶長8年（1603）：社領は150石 徳川家光以降歴代将軍による150石の朱印状 		
	都都古和気神社（八槻）	<ul style="list-style-type: none"> 戦国期：結城白河氏・佐竹氏 近世：棚倉藩 		<ul style="list-style-type: none"> 永正2年（1505）、結城政朝により2貫文地寄進 天文4年（1535）、結城白河氏かた50疋の地寄進 文禄4年（1595）、佐竹氏より200石寄進 		
出羽国	大物忌神社	永正7年（1510）12月2日「佐竹義舜起請文」など				
若狭国	若狭彦神社	<ul style="list-style-type: none"> 代々守護（一色氏・武田氏）による保護（修理造営・神事祭祀） 近世：木下氏・京極氏・酒井氏などの藩主による保護 	<ul style="list-style-type: none"> 応永26年（1419）：守護一色義範による社殿造営 天文7年（1538）：守護武田信豊による造営 文化10年（1813）：社殿造営 	天正16年（1589）：浅野長政による11石の寄進		天正元年（1573）：丹羽長秀による禁制

越前国	気比神宮	<ul style="list-style-type: none"> ・朝倉氏、社家を家臣団に組み込む→朝倉氏の滅亡と共に社家の没落 ・近世：松平氏（福井藩）・酒井氏（小浜藩） 	<ul style="list-style-type: none"> ・元亀元年（1570）：信長による越前攻略のために社殿焼失及び社領消失 ・慶長9年（1604）：福井藩主結城秀康により社殿再建 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝倉氏による社領支配 ・慶長8年（1603）：結城康秀より100石の寄進 ・徳川家光、秀忠病氣平癒祈願として50石寄進 		
加賀国	白山比咩神社	近世：加賀藩主前田氏	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長元年（1596）、前田利家による本宮本殿の造営 ・撰末社の造営なども藩主一門や藩士らの奉加により造営 ・寛文6年（1666）、造営奉加のための論旨 	寛文7年（1667）、前田綱紀による100石の寄進		
能登国	気多神宮	<ul style="list-style-type: none"> ・畠山氏の保護（国衙惣代官職：天正5年滅亡） ・上杉氏・織田氏による保護と統制 ・近世：前田氏（加賀藩） 	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄5年（1562）、正親町天皇の論旨を得て守護畠山義綱を願主とした造営（造営料として7000疋寄進及び能登一國から臨時造営料徴収） ・永禄12年（1569）、義綱による撰社などの造営 ・天正12年（1584）、前田利家は大神宮造営のための奉加を肝煎・百姓らに命ずる（←一國平均役） ・歴代加賀藩主による諸社殿の造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・享禄元年（1528）、畠山義元により年貢3000疋奉納 ・天正期：980俵2斗8升 ・天正10年（1582）、前田利家700俵地（内300俵は修理費）寄進 ・慶長5年（1600）、前田利長により200石安堵 ・明暦3年（1657）、前田利常により150石加増 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正11年（1583）、前田利家は贄漁のための一船の課役を免ず ・天正14年（1586）、神幸神事を例年の如く行わせる 	『気多社祭儀録』（1531） 「気多社年中神事書上」（1577）
越中国	気多神社	近世：加賀藩の保護	<ul style="list-style-type: none"> ・天文期の兵火により社殿焼失 ・永禄年間（1558～70）、本殿再建 ・正保2年（1654）、前田利常により本社・拝殿・三社の御輿建立 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長2年（1597）、前田利長により寺領宮林寄進 ・慶安3年（1650）、加賀藩主前田利常により10石の神領寄進 		

越後国	弥彦神社	<ul style="list-style-type: none"> ・守護上杉氏と守護代長尾氏の保護と統制 ・永禄7年（1564）、上杉謙信による祈願文の奉納（北条氏・武田氏の征討） ・近世：幕府 	<ul style="list-style-type: none"> ・元禄16年（1703）：江戸幕府により社殿造営←寛文8年（1668）以降、神主による造営願により、元禄13年（1700）に与板藩を通じて幕府役人が派遣される ・宝暦3年（1753）：拝殿のみ再建 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正20年（1592）時の社領は、およそ2193石 ・慶長20年（1615）：松平忠輝により500石の寄進 ・徳川家光、この500石を朱印地とする 	「定式神事次第」（1611）
	居多神社	<ul style="list-style-type: none"> ・上杉氏による保護と統制 ・永禄3年（1560）：上杉謙信による制札（守護代長尾氏） ・近世：徳川将軍家・高田城主松平氏による保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文2年（1533）：守護上杉一族上條定憲の兵により焼亡（←守護代長尾為景、越後平定の折には社殿造営すると祈願） ・天正6年（1578）の上杉謙信死後、継嗣騒動（御館の乱）により戦火を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長4年（1599）：堀秀治による13石の寄進 ・慶長16年（1611）：松平忠輝による100石の寄進 ・歴代徳川将軍により朱印地100石の安堵 	
佐渡国	度津神社		<ul style="list-style-type: none"> ・文明2年（1470）：社地など流出 ・永正16年（1519）：本間淳季による修理 ・宝永6年（1709）：本殿造営 ・文政10年（1827）：拝殿造営 		
丹波国	出雲神社	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁・文明の乱期：管領細川氏による掌握 ・戦国前期：守護代内藤氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・弘治3年（1557）：諸層の奉加により社殿造営 ・修理の棟札：文安2年（1445）、弘治3年（1557）、天正12年（1584） 		<ul style="list-style-type: none"> ・細川政元、摂津平定に際して願文を奉納（社殿造営及び社参） ・永正5年（1508）：内藤貞正による願文奉納（社領安堵）
丹後国	籠神社	守護一色氏による保護	弘化2年（1845）：本殿造営	<ul style="list-style-type: none"> ・中世期の社領：59町3段210歩 ・江戸期の社領：8斗4升4合 	
但馬国	出石神社	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期：守護山名氏による保護と崇敬←祝職神床氏は山名氏の被官 ・近世：出石藩主小出氏・仙石氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・永正元年（1504）：兵火による社殿焼失 ・大永4年（1524）：民衆の援助による再建（戦国期：守護から庶民まで幅広い信仰） ・永禄11年（1568）：山名氏による本社再建 ・明和7年（1770）に本殿、安永3年（1774）に社殿を諸国勧進により造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正8年（1580）、秀吉により社領没収 ・天和2年（1682）、藩主小出吉英による11石7斗4升の寄進 	

因幡国	宇部神社	正徳4年(1714)：正一位の神階宣下→藩主の祈禱所として毎年祈禱料銀12枚	・大永6年(1526)：社殿再建の論旨 ・秀吉の鳥取城攻略の際、戦火により社殿焼失	・寛永10年(1633)：鳥取藩主池田光仲による25石の社領寄進 ・元禄6年(1693)：初穂米49石から25石に減額	元禄6年(1693)：3月・8月の御幸神事が再興される
伯耆国	倭文神社	・戦国期：尼子氏・吉川氏・南條氏 ・近世：池田氏(鳥取藩)	・大永年中：兵火により社殿焼失 ・天文23年(1554)：尼子晴久により社殿造営 ・元亀元年(1570)：南條宗勝による社殿修理 ・南條元續による社殿再興 ・寛永初期：社殿造営	・天文23年(1554)：尼子晴久により70石の社領寄進 ・寛永10年(1633)：池田氏による4石9斗2升の社領寄進	御輿渡御、天正期から延享2年(1745)まで中絶(←吉川元長と秀吉との戦乱)
出雲国	杵築大社	・室町期：足利義詮・山名氏・細川氏・京極氏 ・戦国期：尼子氏・毛利氏による宗教政策(宗教権威の否定・祭礼構造の変化) ・近世：松江藩主松平氏	・永正16年(1519)：尼子経久による假殿式造営(←順次、社殿造営)→国造家における相論 ・天正8年(1580)：毛利輝元による假殿式・鳥居造営 ・慶長14年(1609)：豊臣秀頼により假殿式造営 ・寛文7年(1667)：松江藩主松平氏による正殿式造営(幕府も出資・毛利氏も鳥居寄進)	・天正19年(1591)：毛利氏の検地による社領の削減と没収→両国造家に対して各1100石の知行 ・寛永15年(1638)：松江藩主松平直政により2130石から2730石に加増	「杵築大社年中行事目録」(1584：千家方、1598：北島方) 「杵築大社祭礼年中行事」(近世)
石見国	物部神社	・戦国期：大内氏・毛利氏 ・天文11年(1543)：大内義隆による武運長久祈願(太刀・神馬の寄進) ・近世：徳川將軍家	・天文19年(1550)：吉川元春による本殿と拝殿の造営 ・天正15年(1582)：毛利輝元が社殿造営に尽力 ・享保3年(1718)：大火により社殿焼失 ・延享3年(1746)：大岡越前守は幕命として出雲・因幡・伯耆・安芸・周防・長門・石見の国々に再建に対する寄付を募る	・弘治2年(1556)：毛利元就による社領の寄進 ・豊臣期：285石9斗の社領 ・寛文5年(1665)：徳川家綱より300石の朱印地寄進	「大永年中一宮物部大明神御宝前儀式之事一部」(1849) 「大永年中以後永禄年中石州一宮御祭礼儀式入目之事」(1855)
隠岐国	水若酢神社	・守護代隠岐氏との対立(享禄3年～天文元年)←大宮司の没落 ・戦国期後半：吉川氏	寛政7年(1795)：本殿造営(←村懸り)	・慶長4年(1599)：作分約70石 ・近世期：社領10石	『隠州視聴記』(近世)

播磨国	伊和社	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期：赤松氏・山名氏による保護と統制 ・戦国期：宇野氏 ・近世：姫路城主池田氏・安志藩小笠原氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤松氏・山名氏・宇野氏による本殿・幣殿の造営 ・嘉永5年（1852）：社殿炎上 ・安政5年（1858）：幣殿などは播磨国民衆の浄財により再建 ・文久2年（1862）：安志藩主小笠原貞孚による本殿再建 	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁2年（1468）：赤松氏祈祷料として伊和東郷寄進 ・天正8年（1580）：秀吉により宇野氏が滅ぼされると社領没収 ・近世：田1町・畑1町 	天文14年（1545）：「当社式目面言上案」→年間75度の祭祀	
美作国	中山神社	赤松・尼子・毛利・浦上・宇喜多・小早川・森・松平の諸氏（←惣社及び二宮と同待遇）	<ul style="list-style-type: none"> ・永正8年（1511）：社殿炎上 ・天文23年（1554）：尼子晴久の放火により社殿焼失 ・永禄2年（1559）：尼子晴久による再建 ※撰末社の多くが尼子晴久の攻略により焼失（112→現存5）	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長6年（1601）：小早川秀秋より10石の寄進 ・慶長9年（1604）：津山藩主森忠政により100石の寄進 ・元禄11年（1698）以後、津山藩主松平氏より15石の寄進 	<ul style="list-style-type: none"> ・尼子氏による祭礼の励行 ・毛利氏による祭礼の励行 	『作陽誌』
備前国	吉備津彦神社	<ul style="list-style-type: none"> ・赤松氏、松田氏（足利家奉公衆）による保護 ・宇喜多氏・小早川氏の保護 ・岡山藩主池田氏（祖廟）：本殿相殿に池田信輝・輝政の霊を祀る 	<ul style="list-style-type: none"> ・文明年間（1469～87）：松田元隆による修復 ・永禄年間（1558～70）：松田元資による社殿の焼失 ・慶長6年（1601）：小早川秀秋による本殿再興 ・元禄10年（1697）：池田綱政による本殿改築 	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄4年（1595）：宇喜多秀家の寺社再編により社領30石 ・慶長3年（1598）：秀家より約70石の加増 ・慶長6年（1601）：小早川秀秋による300石の寄進 ・延宝5年（1677）：池田氏より相殿合祀に対する50石寄進 	「一宮社法」（1342） 「祭礼次第」（1471）	
備中国	吉備津神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：毛利氏による統制と保護 ・近世：幕府の祈願所 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正年間（1573～92）初期：本宮社炎上 ・天正6年（1578）～天正17年（1589）における27枚の回廊造営の棟札 ・慶長17年（1612）：安原備中守が願主となって御釜殿を再建 	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期：板倉郷、庭瀬郷、撫川郷の三郷 ・天正8年（1580）：毛利氏の検地による社領の減少 ・文禄4年（1595）：宇喜多氏による100石安堵 ・近世：境内160石及び山林の安堵→歴代將軍より門前160石の朱印状 	「吉備津宮御供座古実旧例次第」（1673～81） 「吉備津宮御供座主法覚」（1688～1704） ほか	

備後国	吉備津神社	毛利氏・福島氏・福山藩水野氏	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄8年（1565）前後：毛利元就による社殿造営 ・慶安元年（1648）：福山藩主水野勝成による本殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正19年（1591）：毛利元就により300石の寄進 ・慶長5年（1600）：福島正則によ33石1斗5升の寄進 ・水野勝成により50石の寄進 ・寛文10年（1670）：幕府により3石3斗2升の加増 		
安芸国	巖島神社	<ul style="list-style-type: none"> ・大内氏・毛利氏による保護と統制 ・天文10年（1541）：大内氏による神主家の滅亡 ・近世：福島氏・浅野氏による統制と保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期：神社維持に対して庶民信仰に依存度高まる→大願寺を中心にした武家・庶民の勧進 【毛利氏による造営】 ・弘治2年（1556）：回廊床張替 ・弘治3年（1557）：反橋再建 ・永禄4年（1561）：大鳥居再建 ・元亀2年（1571）：本殿等の造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長5年（1600）、毛利氏に代わり福島氏が安芸入国→毛利時代の社領没収 ・福島氏：祭料：825石、扶持米：525石の支給 ・浅野氏→祭料：735石、扶持米：356石 	<ul style="list-style-type: none"> ・大内氏による祭礼の再興 ・毛利氏による祭礼の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「巖島内外宮社役神事次第」（1563） 「巖島内宮外宮神事年中行事」（戦国末期）
周防国	玉祖神社	大内氏・毛利氏の保護	<ul style="list-style-type: none"> ・永正15年（1518）：大内義興による太刀・神馬の寄進 ・慶長3年（1598）：社殿焼失 ・慶長14年（1613）：毛利輝元により社殿再興 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正17年（1589）：毛利輝元による200石の寄進 ・文禄期：約158石 ・慶長13年（1608）：約10石 ・慶長17年（1612）：18石 	「大内弘幸神祠重建目録」（1335）	
長門国	住吉神社	大内氏・毛利氏の保護	<ul style="list-style-type: none"> ・応安3年（1370）：大内弘世による社殿修復 ・天文8年（1539）：毛利元就による拝殿などの造営 ・毛利氏歴代藩主による社殿の造営、修復 	<ul style="list-style-type: none"> ・御斎祭：萩藩主より御斎料の奉納 ・和布利祭：直会の和布、大内氏や毛利氏にも献上 ・神幸祭、寛永2年（1625）以後廃止（多額の出費のため） 	<ul style="list-style-type: none"> 「一宮御神事年中記録注進案」 「一宮神事入目註進案」（共に1481） 	

紀伊国	日前国懸社	<ul style="list-style-type: none"> ・中世末期まで朝廷 ・近世：浅野氏・紀州徳川氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文2年（1533）：社殿罹災→天文12年（1543）：神領により再建 ・永禄5年（1562）：社殿火災→仮殿造営 ・天正13年（1585）：秀吉により社殿破却 →国造紀忠雄が徳川方に与したため ・天正15年（1587）：羽柴秀長による仮殿造営 ・寛永4年（1627）：徳川頼宣による社殿再興 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正13年（1585）：秀吉により社領没収 ・慶長6年（1601）：浅野氏による15石5斗の寄進 ・寛永4年（1627）：40石の社領 ・文化5年（1808）：400石に加増 	「日前宮年中神事記」（1371） 「日前国懸太神宮年中行事」（1665）
淡路国	伊弉諾神社	<ul style="list-style-type: none"> ・中世：田村氏（領主・神主） ・近世：蜂須賀氏（直参及び代参奉幣） 	<ul style="list-style-type: none"> ・田村氏による社殿造営や修復 ・蜂須賀氏による本殿・拝殿などの修復 	元和7年（1621）：藩主より社領10石の黒印状	弘治元年（1555）：神主田村盛春により神宮寺が法華宗に改宗
阿波国	大麻比古神社	<ul style="list-style-type: none"> ・室町末期：三好氏の保護 ・近世：徳島藩の御建立所 	<ul style="list-style-type: none"> ・三好氏による拝殿などの社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・三好氏：宮地1町7反 ・元文元年（1736）：社領25石 	
讃岐国	田村神社	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝・室町期：守護細川氏の保護・統制 ・近世期：高松藩松平氏（→初代藩主頼重、両部神道から唯一神道へ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・長禄4年（1460）：細川勝元による社殿造営 ・文禄5年（1596）：地震により社殿倒壊 ・明暦元年（1655）：藩主松平頼重による社殿再興 	<ul style="list-style-type: none"> ・長禄4年（1460）：細川勝元による700貫文 ・天正14年（1586）：仙石久秀による100石の寄進 ・天正15年（1587）：生駒近規による50石の加増寄進 ・近世期：高松藩主松平氏より44石5斗の寄進 	「田村大社壁書」（1460）
伊予国	大山祇神社	<ul style="list-style-type: none"> ・守護河野氏による保護（大祝職の補任・社領安堵） ・戦国期：村上・大内・細川・毛利氏などによる保護 	応永年間（1394～1428）：本殿・拝殿の造営	天文13年（1544）：大内義隆の参詣	「伊予国第一宮三嶋社大祝職并八節供祭礼等記録」（1364）

土佐国	土佐神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：長宗我部氏 ・近世：土佐藩主山内氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・永禄6年（1563）：長宗我部氏との対立における有力国人本山氏・吉良氏による兵火（社殿は残る） ・永禄10年（1567）：四国平定祈願として長宗我部元親による社殿再建→在地の家臣（上級家臣から地下層まで）に対して夫役を課す ・寛永8年（1631）：土佐藩主山内忠義による楼門の造営 	元禄期：社領79石+7石8斗8升	「一宮大明神年中行事並東照宮江社人御用方御末社用諸寄進物共」（近世）	
筑前国	筥前宮	<ul style="list-style-type: none"> ・室町～戦国期：大内氏・少弐氏・大友氏 ・近世：小早川氏・黒田氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文15年（1546）：大内義隆により本殿・拝殿造営 ・文禄3年（1594）：小早川隆景により楼門造営 ・慶長14年（1609）：黒田長政により舞台と石鳥居の造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄元年（1591）：社領1000石 ・文禄4年（1595）：秀吉より500石寄進 ・慶長4年（1599）：小早川秀秋により500石寄進 ・慶長6年（1601）：黒田長政により500寄進 	延宝3年（1675）：8月の放生会再興	「筥前宮神事用途注文」（1478）
	住吉神社	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期：大内氏（伏見宮家代官）・少弐氏 ・近世：黒田氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・文安2年（1445）：大内氏による再興 ・元和9年（1623）：黒田長政による社殿再建←銀子100枚と材木の寄進 	<ul style="list-style-type: none"> ・天和3年（1683）：黒田光之により祭田30石寄進 ・文化13年（1816）：黒田斉清により20石加増 		
筑後国	高良社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：大友氏・龍造寺氏による保護と統制←軍事的拠点 ・近世：毛利氏→田中氏→有馬氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文初期：造営のため大友義鑑による武家領及び社寺領への課役 ・天正14年（1586）：島津氏により高良山一体焼失 ・承応3年（1654）：有馬忠頼による大鳥居造営 ・万治3年（1660）：有馬頼利による社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正15年（1587）：秀吉により社領没収 ・同上年：毛利秀包より1000石の寄進 ・慶長6年（1601）：田中吉政により1000石安堵←有馬氏もこれを継承 		『高良記』（戦国末期～近世初期）

豊前国	宇佐宮	<ul style="list-style-type: none"> ・室町期：大内氏による保護と統制 ・戦国期：大友氏による統制 ・近世：黒田氏・細川氏・龍王藩松平氏・徳川将軍家 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文17年（1548）頃：大内義隆による社殿造営 ・永禄4年（1561）、天正4年（1576）、天正9年（1581）：大友氏による破却 ・天正19年（1591）：黒田氏による社殿造営 ・慶長10年～寛永4年（1605～1627）：細川氏による大規模な社殿造営 ・寛永16年（1639）：松平重直による鳥居再建 ・寛保2年（1742）：幕府・諸藩・庶民などの寄付による社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正15年（1587）：秀吉により社領没収 ・天正17年（1589）：黒田長政により300石寄進 ・慶長6年（1601）：細川忠興により500石寄進 →慶長11～20年（1606～15）にかけて1000石加増 ・正保2年（1645）：松平氏により700石寄進 ・松平氏に替わり入国した小笠原氏による寄進は無し→幕府への訴え ・正保3年（1646）：徳川家光により1000石寄進 	<ul style="list-style-type: none"> ・元和2年（1616）：行幸会再興 ・元和4年（1618）：放生会再興 ・元和5年（1619）：神能再興 ・延宝8年（1680）：御祓会再興 ・寛保2年（1742）：宇佐宮奉幣使復活 	<p>「年中行事次第案」 「宇佐宮寺造営并神事再興日記目録」 「宇佐宮年中行事目録」 「宇佐宮年中行事及檢校次第案」</p>
豊後国	由原八幡宮	<ul style="list-style-type: none"> ・大友氏による保護と統制（大友氏の氏神→領国鎮守神） ・近世：府内藩主 	<ul style="list-style-type: none"> 天正5・6年（1577・78）：大友氏による造営←造営奉行を家臣より任命、一国平均役として賦課 	<ul style="list-style-type: none"> 慶長2年（1597）：府内藩主福原氏により54石5斗6升9合寄進 	<ul style="list-style-type: none"> 八朔：大友氏家臣の結束を求める 	<p>「由原宮年中行事次第」（1332）</p>
肥前国	河上社	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝期：千葉氏 ・室町期：今川氏 ・戦国期：龍造寺氏 ・近世：鍋島氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・文明9年（1477）：勸進僧の協力により造営 ・永禄年間（1558～70）：龍造寺氏による造営 ・元亀元年（1570）：大友氏の兵火により社殿焼失 ※国衙役→一国平均役→勸進 ・慶長13年（1608）：鍋島勝重による鳥居造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・室町末期：田畑350町 ・慶長18年（1613）：鍋島勝茂により172石4斗9升7勺寄進 	<p>「河上宮見役所課神田坪付注文案」（1176） 「河上宮仏神事等課役免給主等注文案」（1241） 「河上社遷宮等儀式案」（1400） 「河上社遷宮儀式次第」（1619・1649）</p>	
	千栗八幡宮	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：龍造寺氏←起請文における国人の結束 ・近世：鍋島氏による保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文3年（1534）：大内家臣陶氏により社殿焼失 ・天正11年（1583）：龍造寺政家の再建 ・天正13年（1585）：大友氏により社殿焼失 ・天正20年（1592）：鍋島直茂により再建 ・宝暦5年（1755）：社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正15年（1588）：秀吉により社領没収 ・慶長3年（1598）：鍋島直茂による200石寄進 ・慶長18年（1613）：鍋島勝茂による147石7斗寄進 	<p>『肥前古跡縁起』：「千栗山」（1665）</p>	

肥後国	阿蘇神社	<ul style="list-style-type: none"> ・守護菊池氏 ・大官司による領主的支配←大友・島津氏の進出及び秀吉九州統一により政治的勢力消失 ・近世：加藤清正・細川氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・文明4年（1472）：社殿造営←一国平均役の棟別錢課役 ・天文年間：社殿焼失→以後、仮殿 ・天正15年（1587）：秀吉による神主成敗→阿蘇社の衰退 ・弘化3年（1846）：社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長6年（1601）：加藤清正による大官司惟善に358石の知行 ・細川氏による989石の寄進（内社領100石） ・貞享4年（1687）：100石加増 	<ul style="list-style-type: none"> ・細川氏による祭祀再興 	<p>「阿蘇社年中神事次第（写）」 「阿蘇社神事注文（写）」 ほか</p>
日向国	都農神社	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国期：伊東氏 ・近世：秋月氏（高鍋藩）の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・天文18年（1549）：伊東義祐による社殿造営 ・天正6年（1578）：大友氏の日向侵攻に際し社殿焼失 ・元和元年（1615）：高鍋藩主秋月種春による社殿再興 ・元禄5年（1692）：秋月種政による再興 ・元文年間（1736～41）、安政年間（1854～60）に改築 	<ul style="list-style-type: none"> 元禄14年（1701）：秋月種政により20石の社領寄進 	<ul style="list-style-type: none"> 御輿渡御、天保3年（1832）：秋月種任の認可により再興 	
大隅国	大隅正八幡宮	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝期：国衙在庁系領主層 ・室町期：島津氏による統制と保護→一時、守護代本田氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・大永7年（1527）：社殿兵火に遭う ・天文20年（1551）：神体の造立 ・永禄3年（1560）：社殿造営 ・慶長6年（1601）：宝暦6年（1756）に社殿造営 	<ul style="list-style-type: none"> ・天正20年（1592）：30町の社領 ・江戸期：約729石 	<p>『大隅鹿兒島神社旧記写』（近世）</p>	
薩摩国	新田宮	<p>枚聞神社との一宮相論←島津氏の庇護により勝利・蒙古襲来時の異国降伏祈願</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長6～7年（1601～02）：島津義久による社殿造営 ・嘉永3年（1850）：島津斉興による改築 	<ul style="list-style-type: none"> ・大永7年（1527）：島津忠兼による水田3町寄進 ・天正20年（1592）：社領20町の免許 ・慶長7年（1602）：島津氏念願成就のため100石の寄進 ・寛保2年（1742）：867石（内250石神領） 	<p>天正15年（1587）：豊臣奉行連署による禁制（乱暴狼藉・放火を禁止）</p>	
	枚聞神社	<p>島津氏の保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慶長15年（1610）、島津氏により社殿再興 ・天明7年（1787）、社殿改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・文政7年（1824）、島津義久による24町の寄進 ・寛政4年（1792）、200石の社領 		

巻岐国	天手長男神社	近世：松浦氏（平戸藩）	・元禄元年（1683）、松浦鎮信により宝殿・拝殿造営 ・享保9年（1724）、松浦篤信による宝殿再建	・元禄13年（1700）、藩より20石寄進 ・元文4年（1739）、10石加増	・藩主の命による勧請祭祀 ・寛政年間（1789～1801）、松浦清による公方神楽米6升6合・五穀成就米3斗・初穂米3石・太神楽米9斗 ・祭礼において藩主の代参 ・城代や郡代の交代時には必ず参詣する習慣
対馬国	上津八幡宮	少弐氏・宗氏の保護と統制	・永享12年（1440）：宗貞盛による宝殿再興	・社領における扇氏の進止権 ・宗氏による諸職及び諸役の安堵	『對州神社誌』 (1685)
	下津八幡宮	少弐氏・宗氏の保護と統制			『對州神社誌』 (1685)

〈参考文献〉

- 中世諸国一宮制研究会『中世諸国一宮制の基礎的研究』（岩田書院・2000）
 式内社研究会編『式内社調査報告』第1巻～第24巻（皇學館大學出版部・1976～1978）
 日本歴史地名大系 第3巻～第47巻（平凡社・1979～2002）
 大神神社史料編修委員会編『大神神社史』（大神神社・1975）
 『住吉大社史』下巻（住吉大社奉賛会・1983）
 尾崎富義編『小國の神 遠江國一宮 小國神社誌』（おうふう・1977）
 浅間神社編『浅間文書纂』（官幣大社浅間神社社務所・1931）
 『甲斐国一宮国幣中社浅間神社略誌』（浅間神社・1935）
 『飛騨一宮水無神社畧誌』（水無神社社務所・1933）
 長谷川忠崇『飛州志』（住伊書店・1909）
 笹本正治『武田氏の信濃支配』（名著出版・1990）
 『山梨県史』資料編5 中世2上 県外文書（山梨県・2005）
 官幣大社氣比神宮編『氣比宮社記』全（氣比神宮・1940）
 白山比咩神社編『白山比咩神社叢書』全（名著出版・1975）

真清田神社史編纂委員会編『真清田神社史』（真清田神社史編纂委員会・1994）
大社町史編集委員会編『大社町史』 上巻（大社町・1991）
大社町史編纂委員会編『大社町史』 史料編 上・下巻（大社町・1997）
曾根研三『伊和神社史の研究』（国幣中社伊和神社社務所・1939）
藤卷正之編『国幣中社中山神社史料』（中山神社・1923）
吉備津彦神社社務所編『吉備津彦神社史料』（吉備津彦神社社務所・1936）
『広島県史』中世 通史Ⅱ（広島県・1984）
『和歌山縣誌』第1巻（名著出版・1970：大正3年複製版）
長門国一ノ宮住吉神社社務所編『長門国一ノ宮住吉神社史料』（長門国一ノ宮住吉神社社務所・1975）
廣渡正利『管崎宮史』（文献出版・1999）
廣渡正利『筑前一宮住吉神社史』（文献出版・1996）
久留米市史編さん委員会『久留米市史』第七巻 資料編（古代中世）（久留米市・1992）
久留米市史編さん委員会『久留米市史』第八巻 資料編（近世1）（久留米市・1993）
『宇佐市史』中巻（宇佐市史刊行会・1977）